

堀辰雄文学記念館からのお知らせ

◆企画展

『美しい村』のイマージュ

堀は、昭和28年に追分で亡くなるまで、多くの時間を軽井沢で過ごしました。堀が執筆した作品には、軽井沢を舞台にしたものも多くあります。なかでも「美しい村」には、高原の村の自然が文学空間として多彩に描かれています。本展示では、「美しい村」を堀の蔵書や旧軽井沢の風景と併せて紹介します。

と き 7月19日(土)から
12月27日(土)まで

※7月27日(日)は、無料開館日です。

◆緑陰講座1

と き 7月19日(土)

13時30分から15時まで

講師 飯島 洋 氏

(金沢大学准教授)

演題

「堀辰雄の軽井沢―「想像上の亡命をめぐる」―」

(昭和17年頃 軽井沢の別荘No.142にて)



◆緑陰講座2

と き 7月20日(日)

13時30分から15時まで

講師 渡部 麻実 氏

(日本女子大学教授)

演題 「堀辰雄と『風』の物語」

◆緑陰講座3

と き 8月23日(土)

13時30分から15時まで

講師 大藤 敏行 氏

(軽井沢高原文庫館長)

演題 「堀辰雄『美しい村』をめぐる」

※緑陰講座は入館料のみ必要です。

◆子ども文学講座

と き 8月6日(水)

10時から12時まで

講師 福原 未来 氏

(軽井沢町社会教育委員)

演題 「ことばであそぼう！」

※各講座は、7月1日(火)9時から電話で申し込んでください。

開館時間

9時から17時まで
(最終入館16時30分)

休館日

水曜日
(7月15日、10月31日無休)

入館料

大人 400円
小中高生 200円

※追分宿郷土館と共通

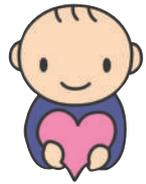
【申し込み・問い合わせ】

堀辰雄文学記念館

☎45・2050

「こころらぼ」

こころのラボレーション



スクールサポーター
(臨床心理士・公認心理師)
小林 真理

「理由」と「行動」。

「キヤツキヤツ」と子ども達が楽しそうに遊んでいる姿を見て、嫌な気持ちになったり、不快な思いをするような方は少ないと思います。ただ、遊びが楽しくなると、だんだんと声が大きくなったり、ちよつとしたことがトラブルになるなど、楽しすぎるが故に子ども達自身も普段はできるコントロールができなくなり、言動がエスカレートしていつてしまうことがあります(大人でもそういうことはありませんが...)。そうすると、「いに加減にしないさい」「やめなさい」のような「言いたくないの」について出てしまう一言になつてしまうことがあります。とはいえ、子ども同士は、小さなトラブルを乗り越えながら、「コミュニケーションや自己制御のスキル、自他を認める力」を育てています。

危険が伴うようなときには、大人が子ども同士の言動を止めることは必要です。周りの迷惑になつたり、誰かが嫌な思いや悲しい思いをしてしまうような言動をとっているときも、注意をせざるを得ないことです。以前に関わっていた中学生で、体育の時間のチームプレイ競技になると「負けたくない」という気持ちが人一倍強くなつてしまい、チームになつた子ども達に「お前、なにやつてんだよ、クズ」「下手くそ、消えろ」のような暴言を吐いてしまう子がいきました。楽しかったはずの場の空気がだんだん萎縮した様子になつていきます。中には「その言い方はないよ」と注意してくれる子どももいたのですが、「はっ、ごめんと」と言い放ち、さらには場の雰囲気が悪くなります。このような言葉や態度を受けた子ども達が嫌な気持ちや切ない気持ち・悔しい気持ちになることは誰でも想像できることだと思います。ただ、この中学生は一つのことしに思い入れが強くなつてしまう特性もあつたため、この場で誰が注意しても怒つても、逆に状況を悪くしてしまつ、ということが明らかでした。「悪いことは悪い」というのは明白なことです。長い目で見た時には、落ち着いているときに「あの時の○○さんの態度で、□□さんが悲しい思いをしてたよ」「勝ちたい気持ちはわかるけど、あの態度は周りを怖がらせていたよ」と伝える方が、効果的なこともあります。実際にこのケースの場合は、周りの子ども達が暴言を吐く子どもの良さも理解していたために、「ごめん」は悪かつた、「ごめん」

とそれ以上に引きずることもなく、良い関係を保っていました。一方で、相手に何度「やめて」と伝えても自分の言動を振り返ることができない子どももいます。振り返ることができないと、そついつた子どもは何度も同じことを繰り返します。それが、発達の特性や本人なりの「理由」だったとしても、許されることではないこともあります。そうした場合には、落ち着いているときに何度も言動について一緒に振り返りをしたり、ソーシャルスキルトレーニング(SST)を行うなどの、手立てが必要になつてきます。これを地道に繰り返すことで、成長とともに子ども達にも変化がでてくるものです。

言動の改善をはかるにはその子どもへの理解と地道で継続的な寄り添いが必要なのです。その場で解決せず、繰り返されてしまつと、大人側もさじを投げ出してしまうこともありますが、ひとつひとつ伝えながらも、ひとつひとつ伝えながら、「一緒に関わっていく」という姿勢が大切であることも、改めて思い返していけるといいですね。



過去の「こころらぼ」は町ホームページからご覧いただけます。